

Contents

1	第一章
---	-----

2

Chapter1 第一章

六歳さいの時とき僕はぼく、「体験談たいけんだん」という原生林げんせいりんについて書かかれた本ほんで、素晴らしい挿絵さしえを見たことがある。それは大蛇だいじゃのボアぼあが猛獣もうじゅうを飲み込のもうとしている絵えだった。本ほんにはこんな説明せつめいがあった。

ボアは獲物えものを噛かまずに丸まるごと飲み込みます。すると動けなくなるので、獲物えものを消化しょうかする半年はんとしもの間かん、ずっと眠ねむって過すぎします。

僕はジャングルでの冒険ぼうけんについていろいろと考かんがえ、自分でも色鉛筆じぶんいろえんぴつを使つかって、生まれて初めての絵えを描かき上げた。その傑作けっさくを大人たちに見せ、怖こわいかどうか聞きいてみた。すると、こんな答こたえが返かえってきた。

どうして帽子ぼうしが怖こわいんだい？

帽子ぼうしの絵えなんかじゃなかった。ゾウを消化しょうかしているボアを描えがいたのだ。でも、大人おとなにはわからないらしいので、今度はボアの内側こんどの絵えを描かいてみた。大人おとなには何時なんじだって説明せつめいが必要ひつようなのだ。僕の二番目ぼく にばんめの絵えでは、ちゃんとボアの中なかにいるゾウが見えていた。しかし大人たちは中おとな なかが見えようが見えまいが、ボアの絵えは片付かたづけて、地理ちりや歴史れきし、算数さんすうや文法ぶんぽうの勉強べんきょうをしなさいと、僕ぼくを嗜たしなめた。

こうして、6歳さいにして僕は偉大ぼく いたいな画家がになるという夢ゆめを諦あきらめた。作品第一号さくひんたい とうと第二号だい とうが共に不評ふひょうで、気持ちきもが挫くじけてしまったのだ。

大人おとなというのは、自分たちとは全じぶん まったく何もわかっていないから、いつも子供こどもの方が説明せつめいしてあげなきゃいけないくて、うんざりする。僕は別の仕事ぼく べつ しごとを選えらぶ必要ひつように迫せまられて、飛行機ひこうきの操縦士そうじゅうしになった。そして、世界せかい中ちゅうをあちこち飛とび回まわった。地理ちりは確たしかに役やくに立たった。僕は一目ぼく ひとめで中ちゅう国ごくとアリゾナありぞなを見分みわける事ことができる。夜間飛行やかんひこうで迷まよった時ときなど、そういう知識ちしきがあると本ほん当とうに助たすかる。

これまでの人生じんせいで、僕はたくさんの重ぼく じゅうようじんぶつ要人物し あと知り合ずいぶんった。随分多おおくの大人たちと一緒いっしょに暮くらしたし、マジカまじかにも見みてきた。それでも僕の考ぼく かんがえはあまり変かわらなかつた。僕は物分ぼく ものわかりのよさそうな人ひとに出会であった時ときには必かならず、肌はだに離はなさず持もち歩あるいていた。作品第一号さくひんたい とうを見せ、実験じっけんしていた。その人ひとが本ほん当とうに物事ものごとの分わかる人ひとかどうか、知しり

たかったから。でも、答^{こた}えはいつも同^{おな}じだった。

ぼうし
帽子だね。

その後僕^{あとぼく}はボア^{ぼあ}の話^{はなし}も、原生林^{げんせいりん}の話^{はなし}も、星^{ほし}の話^{はなし}もしなかった。話^{はなし}を合^あわせて、
ぶりっじ^{ぶりっじ}やゴルフ^{ごるふ}や、政治^{せいじ}やネクタイ^{ねくたい}の話^{はなし}をした。するとその大人^{おとな}は話^{はなし}が分^わかる相手^{あいて}
と知^しり合^あえたと言^いって喜^{よろこ}ぶのだ。